

びわ樹の潮風害後の樹体回復状況						
<p>[要約] 潮風害によって落葉被害を受けたびわ樹の樹体回復（樹勢回復）は比較的速やかで、1年後には被害甚は被害中と同じ程度にまで回復する。被害軽では翌年の着花には潮風害の影響はほとんど残っていない。</p>						
長崎果樹試験場・施肥改善科	専門	土壌肥料	対象	びわ	分類	指導
平成4年度長崎県果樹試験場業務報告						

[背景・ねらい]

1991年の潮風害によってびわ樹は著しい落葉被害を被り樹勢が低下した。今後の、潮風被害軽減対策の確立のために、長崎市茂木地区の被害園を被害程度別に軽（落葉程度 30%以下）、中（30～70%）、甚（70%以上）に分け、潮風によるびわ樹の被害実態及び被害後の樹体回復の状況について調査した。

[成果の内容・特徴]

- ① 被害直後の亜主枝当たり葉数及び1年枝当たりの葉数は、被害が著しいほど少ないが、被害1年後には、被害甚の葉数は被害中と同程度までに回復する。
- ② 葉や1年枝中の塩素含有率は、潮風害直後は被害が著しい区ほど明らかに高い傾向を示すが、1年後には塩素含有率は各部位ともほぼ平常値を示し、潮風害の影響はほとんど残っていない。

[成果の活用面・留意点]

- ① 潮風被害樹の樹体回復技術確立のための基礎資料となる。
- ② 被害年が暖冬であったなど樹体回復の条件に恵まれており、冬季低温の場合は回復の様相が異なることが考えられる。

[具体的データ]

表 1 被害程度別並主枝当たりの 1 年枝及び葉数の変化

被害 程度	1 年枝数			葉 数			葉数 / 1 年枝数		
	11	3	10	11	3	10	11	3	10 (月) ²
軽	57	35	68(119) ¹	389	487	762(196)	6.8	14.1	11.3(166)
中	50	35	43(87)	219	311	430(196)	4.4	10.2	9.9(225)
甚	35	33	35(101)	70	265	447(638)	2.0	8.2	12.6(630)

² 11月は1991年11月、3月、10月は1992年3月、10月

¹ () 内の数字は1991年11月に対する1992年10月の増加率

表 2 被害程度別の葉及び枝中の塩素含有率 (mg%)

被害 程度	1991.11		1992.10 (年. 月)			
	葉	1 年枝	新梢	新葉	旧葉	1 年枝
軽	61	128	25	17	25	44
中	66	198	35	23	28	64
甚	75	288	40	26	33	81

[その他]

研究課題名 : びわの潮風害実態調査及び被害回復対策試験

予算区分 : 受託

研究期間 : 平成4年度 (平成3~4年)

研究担当者 : 犬塚和男

発表論文等 : 平成4年度果樹試験場業務報告

残された問題点 : 冬季低温の場合の樹体回復については不明である。